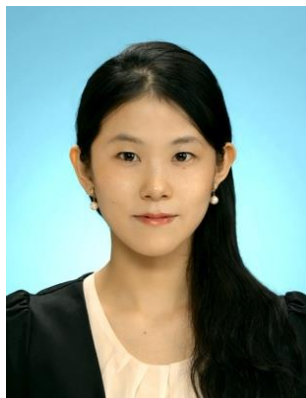


美術・文化財保存修復分野 田口研究室

Taguchi Lab



主研究者: 田口かおり(特任講師)

保存修復をめぐる理論的・実践的研究 —古代から現代にいたる歴史的変遷の再構成を軸として

キーワード: 保存修復、修復理論、美術、文化財、歴史、被災・防災

どのような研究に取り組むのか *Background and Motivation*

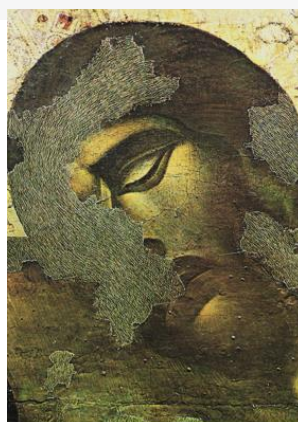
本研究の対象は、古来より、さまざまな技法と概念のもと行われてきた芸術作品と文化財の「保存修復」です。これまでは、近代保存修復学の礎を築いたイタリアの美術史家チューザレ・ブランディの修復理論と、彼が監修した技法について研究を進めてきました。研究成果を土台に、今後は古代ギリシアから現代までを網羅する保存修復史の研究を目指します。ここでは、医学や人類学、美学、表象文化論などとの交差にも目配りしながら、技法変遷と理論の成立過程を再構成していきます。こうしてひとつの「保存修復史」を新たに示した上で、1) 現代美術の現状調査と保存修復 2) 国内美術作品にかんする新情報の更新と公開 3) 被災文化財のレスキューをめぐる歴史的・技法的検討という3つの研究課題に取り組めます。

どのような点が新しいか *Originality*

保存修復学の総合的研究という複雑で巨大な問題系に、理論的かつ実践的に取り組む点に特色があります。近代以降に確立した保存修復学研究は、「現場での実践」と「美術史家たちによる理論展開」の二つの場に分断されて断絶状態におかれた期間が長く、この事態が総合的な保存修復学の完遂を阻む障壁となってきました。本研究では、技法と理論を接続させながら、保存修復史の再構成、国内に收藏されている美術作品の調査や情報の整理と公開、現代美術の保存修復のための方法論分析などの緊急課題に取り組めます。このような実践的なアプローチを通じて、今日の私たちが抱える保存修復の課題とその打開事例を世界に発信していくグローバルな研究体制を整えます。また、被災文化財修復の技法と理論の変遷を再検証し、その応用可能性を精査することで、日本の被災文化財の調査と修復への実際的な貢献を目指す点も、本研究の特徴です。

研究展望とインパクト *Impact and Perspective*

保存修復の技法と思想の歴史的変遷を解き明かす本研究は、保存修復学に携るあらゆる研究者や技術者に一定の参照点を提起するのみならず、歴史学や科学史など他領域にも大きなインパクトを与え、より広い学術交流への貢献に繋がるでしょう。また、現代美術の保存修復について世界各国で検討が進む今、日本からも積極的にこの問題に取り組み、研究成果を発信していくことが重要だと考えています。本研究では、あえて短命に終わるよう制作されたパフォーマンスやインスタレーションなどを含む現代美術について、どのような展示や保存が可能なのか、アーカイヴやドキュメンテーションの方法論についても実践的な考察を行います。美術館や海外研究者とのネットワークを生かし、素材や技法など作品本体についての綿密な調査から、その保存修復方法まで、ケーススタディーを積み重ねて情報交換をしていきます。



多様な保存修復のかたちを検証し、
その意味と目的を読み解きます

光学調査も含め、総合的な調査を行い
作品への介入方法を決定します

■ その他情報:

www.u-tokai.ac.jp/tuiist/tt/announcement_taguchi.html

■ CONTACT:

〒259-1292
神奈川県平塚市北金目4-1-1
東海大学 創造科学技術研究機構
田口かおり
Phone 0463-58-1211 (Ext. 4918)
Email taguchi-kaori@tsc.u-tokai.ac.jp